

# 水稻除草剤

協友

## マメット<sup>®</sup> SM粒剤

シメトリン (PRTR・1種) ..... 1.5%  
 モリネート (PRTR・1種) ..... 8.0%  
 MCPB ..... 0.8%

種類名/シメトリン・モリネート・MCPB粒剤  
 登録番号/第21815号  
 毒性/普通物\*  
 有効年限/4年  
 包装/3kg×8

### 適用雑草と使用方法

使用にあたっては必ずラベルを読んで下さい。

作物名	適用雑草名	使用時期	10a当り 使用量	総使用回数*	使用方法
移植水稲	水田一年生雑草 及び マツバイ ウリカワ ホタルイ ミスガヤツリ ヘラオモダカ クログワイ オモダカ ヒメホタルイ アオミドロ・藻類による 表層はく離	移植後10日 (稲5葉期以降)～ ノビエ3.5葉期 但し、 収穫60日前まで	3kg	本剤 シメトリン剤 1回 モリネート剤 2回 MCPB剤 2回	湛水散布
直播水稲	水田一年生雑草 及び マツバイ	乾田直播の入水後 7日(稲5葉期以降) ～ノビエ3.5葉期 但し、 収穫60日前まで			

### 使用にあたって

#### ■使用上の注意

- 使用量に合わせ秤量し、使いきってください。
- 本剤は湛水状態で手播または散粒機で均一に散布し、重複散布や播きむらのないようにしてください。水深は少なくとも散布後3～4日間は3cm以上に保ち、田面を露出させたり水を切らしたりしないようにし、また、散布後7日間は落水、かけ流しはしないでください。
- 本剤は雑草の発生初期に有効なので、稲が十分活着してから、ノビエの3.5葉期までに散布してください。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布するように注意してください。雑草の発生状況は各地域の気象条件などによって異なるので、県の防除指針に基づき病害虫防除所等関係機関の指導を受けて使用時期を決めることが望ましいです。
- ホタルイ、オモダカでは5葉期まで、ウリカワでは6葉期まで、ミスガヤツリ、ヘラオモダカでは4葉期まで、ヒメホタルイでは草丈10cm以下、アオミドロ・藻類による表層はく離では発生期まで、クログワイでは発生始期から草丈5～10cmまでが本剤散布の適期です。なお、オモダカ、クログワイに対しては本剤のみでは十分な効果が得られない場合があるので、必要に応じて有効な後期除草剤との体系で使用してください。
- 移植前後の初期除草剤による土壌処理との体系で本剤を使用する場合には、雑草の発生状況をよく観察し、時期を失せず適期に散布するよう特に注意してください。
- 直播水稲に使用する場合は、入水後漏水が安定してから散布してください。
- ウリカワには効果が劣ることがあるので、ウリカワ多発田では使用しないでください。
- 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意するほか、別途提供されている技術情報も参考にして使用してください。特に初めて使用する場合は異常気象の場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。

## ■薬害

- 下記のような条件下では薬害を生じやすいので使用をさけてください。特にこれらの悪条件が重なる場合は使用しないでください。
  - ① 稲5葉期未満の場合
  - ② 処理後数日以内に梅雨明けになるなど異常高温が予想される場合
  - ③ 散布時が高温で、蒸散が激しい場合
  - ④ 苗が軟弱な場合や活着不良の時、また極端な深植の場合
  - ⑤ 砂質土壌の水田、減水深の大きな水田（減水深2cm/日以上）、透水不良田、天水田、強還元田および未熟有機物多用田
  - ⑥ 2cm以下の浅水および7～8cm以上の深水の場合
  - ⑦ 整地の不均整な水田
  - ⑧ 稲の根が露出する条件
- 本剤は散布後、田水面から薬剤が気化し、気象条件などで滞留した場合、畑作物、特にきゅうりなどに薬害を生じるおそれがあるので、きゅうりなどが栽植されている圃場に隣接した水田での使用はさけてください。
- 本剤はホルモン作用をもつ除草剤で処理後低温が続く場合には、稲苗の生育抑制などをおこすおそれがあるので、処理後数日間の平均気温が15～16℃以下になると予想される場合には使用をさけてください。

## ■水産動植物への注意

- 水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないでください。
- 水産動植物（甲殻類、藻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。
- 散布後は水管理に注意してください。
- 散布器具および容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。

## ■安全使用上の注意

- 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当てを受けてください。
- 散布の際は農業用マスクなどを着用し、作業後はうがいをしてください。



## ■貯蔵上の注意

- 密封し、直射日光をさけ、種子、苗、肥料および他の農薬などと隔離し、なるべく低温で乾燥した場所に保管してください。